

8月21日 エフェソの信徒への手紙5章21節～6章4節 今日の説教から

説教題：「家族の掟」

今日の聖書箇所は、「家族の掟」について記されている個所で、結婚式の聖書箇所として用いられることもある箇所です。「妻たちよ、主に仕えるように、自分の夫に仕えなさい」「夫たちよ、キリストが教会を愛し、教会のために御自分をお与えになったように、妻を愛しなさい」、そう語り掛ける今日の御言葉は、結婚する夫婦が、新しく生まれる家族が互いに愛し合うことを勧めております。結婚式の聖句として選ばれるのも当然のように感じられるこの言葉は、私たちにもとても理解しやすい語り口調で語られています。

ただ、当時の家父長制度を考えると、この言葉を受け取った人々の驚きは相当のものだったことでしょう。家父長制度は権力の制度です。そこには身分の上下があり、命令をする側と命令される側、奉仕する側と奉仕される側、愛する側と愛される側がはっきりと分かれています。父親や夫が家の中で絶対の権利を持っていたのです。もちろん、すべての場面において完全な上下関係にあったわけではありませんが、日々の様々な場面で、そして大きな決断の場面で、妻や子供は小さくされる側の存在だったのです。

実際、女性の側の権利は相当に小さいものだったようです。だからこそ、パウロは「それゆえ、人は父と母を離れてその妻と結ばれ、二人は一体となる」という言葉を、創世記2章で神様が人間を男と女に作ったときの言葉から引用しています。この言葉をイエスさまも福音書の中で引用しています。この要旨の裏面、聖書箇所の下にその個所を記していますので、よかったらそちらもご覧ください。

ファリサイ派の人々は、申命記に書かれている通り「妻に何か原因があったら離縁することが出来る」と考えていました。それも「妻に何か恥ずべきことを見だし、気に入らなくなったとき」、と非常にあいまいな表現で書かれているので、受け取り方によっては夫の側から気軽に離縁が出来そうにも読み取ることが出来ます。そのような男性優位の考え方で頑なになった人々に対して、イエスさまは「そもそも最初から離縁がゆるされていたわけではない。あなたがたの心が頑固だから許されただけだ」と突き放しています。

心が頑なであると、私たちは人の言葉を受け入れることが出来なくなります。自分の思いが最優先の基準になり、家族のことも、神様のことも優先することが出来なくなってしまいます。かつて律法で離縁がゆるされたのは、男性に離縁の権利を保障する必要があったというよりも、「それだけの理由がない限りは妻を離縁しないように」といういましめの意味もあったようです。ただ、私たち人間は神様を第一に考えることが出来なくなると、その言葉を曲解して自分に都合がいいように受け止めてしまいます。

本来、私たちが行う結婚というものは、神様への愛と隣人への愛を前提にすれば、そして互いに仕える勧めを守ることが出来れば、尽きることない豊かさを生むことが出来るものなのです。互いのことを上だ・下だと見ることなく、神様の愛する独りの人間であることを前提として、そして敬いの気持ちを忘れることがなければ、二人の間には神様の愛がいつまでも注がれることになるのです。

その豊かな交わりを経験して、私たちは誰もがその子供として、生まれてくることが出来ました。そして私たちは、受けた愛を子供たちに、孫やひ孫に注ぐのです。その豊かさは、先達が私たちへ信仰を伝えたように、神様の思いを次の世代へ伝えることとなります。その業を通して、私たちは確かに神様を証しすることが出来るのです。

私たちは互いに愛し合い、互いに尊敬し合うことが出来ます。その豊かな交わりの中で、今週一週間を、これからの歩みを共に進めていきましょう。

今日の説教箇所：エフェソの信徒への手紙 5 章 21 節～6 章 4 節

- 21:キリストに対する畏れをもって、互いに仕え合いなさい。妻たちよ、主に仕えるように、自分の夫に仕えなさい。キリストが教会の頭であり、自らその体の救い主であるように、夫は妻の頭だからです。また、教会がキリストに仕えるように、妻もすべての面で夫に仕えるべきです。
- 25:夫たちよ、キリストが教会を愛し、教会のために御自分をお与えになったように、妻を愛しなさい。キリストがそうなさったのは、言葉を伴う水の洗いによって、教会を清めて聖なるものとし、しみやしわやそのたぐいのものは何一つない、聖なる、汚れのない、栄光に輝く教会を御自分の前に立たせるためでした。そのように夫も、自分の体のように妻を愛さなくてはなりません。妻を愛する人は、自分自身を愛しているのです。わが身を憎んだ者は一人もおらず、かえって、キリストが教会になさったように、わが身を養い、いたわるものです。わたしたちは、キリストの体の一部なのです。「それゆえ、人は父と母を離れてその妻と結ばれ、二人は一体となる。」この神秘は偉大です。わたしは、キリストと教会について述べているのです。いずれにせよ、あなたがたも、それぞれ、妻を自分のように愛しなさい。妻は夫を敬いなさい。
- 1:子供たち、主に結ばれている者として両親に従いなさい。それは正しいことです。「父と母を敬いなさい。」これは約束を伴う最初の掟です。「そうすれば、あなたは幸福になり、地上で長く生きることができる」という約束です。父親たち、子供を怒らせてはなりません。主がしつけ諭されるように、育てなさい。

マタイによる福音書 19 章 3～9 節

- 3: ファリサイ派の人々が近寄り、イエスを試そうとして、「何か理由があれば、夫が妻を離縁することは、律法に適っているでしょうか」と言った。イエスはお答えになった。「あなたたちは読んだことがないのか。創造主は初めから人を男と女とにお造りになった。」そして、こうも言われた。「それゆえ、人は父母を離れてその妻と結ばれ、二人は一体となる。だから、二人はもはや別々ではなく、一体である。従って、神が結び合わせてくださったものを、人は離してはならない。」すると、彼らはイエスに言った。「では、なぜモーセは、離縁状を渡して離縁するように命じたのですか。」イエスは言われた。「あなたたちの心が頑固なので、モーセは妻を離縁することを許したのであって、初めからそうだったわけではない。言うておくが、不法な結婚でもないのに妻を離縁して、他の女を妻にする者は、姦通の罪を犯すことになる。」